

地 声かけ見守り模擬訓練
地域の見守り体制づくりの第一歩

認知症徘徊者への声かけ見守り模擬訓練が、6月19日に生力NT地区で実施されました。認知症への理解者を増やそうと、介護施設職員など22人が実行委員会を立ち上げて企画。田川地区初の取り組みに、町内外から54人が参加しました。参加者は学習会や声かけの実践をおして具体的に学び、今後の課題にも気付けたようです。



↑住宅街を歩く徘徊役のかたにあいさつ。1時間で約20回の声かけが行われました。

↓駅や店前などで町民にリーフレットを手渡し、更生保護への理解を求めました。



地 第66回社会を明るくする運動
地域の力が犯罪や非行を防ぐ

7月11日、田川地区の保護司や役場職員などによる「社会を明るくする運動」が行われました。「社会を明るくする運動」は犯罪や非行の防止、更生への援助の理解を呼びかけ、犯罪のない地域社会を築こうとする全国的な運動で今年で66回目。参加者は町内各地でリーフレットを配り、犯罪や非行のない社会の実現を町民に訴えました。

自 上野焼子ども作陶教室
自分だけの器づくりに挑戦

6月19日、中央公民館で町子ども会育成連合協議会主催の「上野焼子ども作陶教室」が開かれました。毎年応募が定員を超える人気の催しに、小中学生80人が参加。上野焼協同組合15窯元の陶芸家から直接アドバイスを受けながら、土を紐状に練ったものを積み上げて成形していく「ひも作り」でオリジナルのお皿を形づくりました。



↑陶芸のプロに直接手ほどきを受け、目を輝かせながら作陶に取り組む子どもたち。

↓毎朝見守り活動が続けてきた松村さんへ、生徒会中心に「感謝の会」を行いました。



21 方城中全校生徒による「松村さんへの感謝の会」
21年間の感謝の気持ちを込めて

7月20日、方城中183人による「松村さんへの感謝の会」が行われました。松村和文さんは65歳から21年間、伊方小・方城中近くで、子どもたちの登校時の見守り活動をボランティアで実施。この日引退となった松村さんに、敬意と感謝の気持ちを込めて、全員での合唱や呼びかけ、生徒会や教員、PTAから寄書きや花束が贈られました。

↓「市場小交通安全あいさつ児童隊」の代表児童が、表彰状、優勝旗、記念品を壇上で授与されました。



3 第54回こどもの交通安全大会
3年連続！最優秀賞を受賞

児童交通安全運動実践優秀校の表彰式が7月6日、飯塚市で行われ、市場小が3年連続で「最優秀賞」を受賞しました。市場小は30年以上前から、学校と地域が一丸となった交通安全運動に取り組み、分団での集団登下校や、教員・保護者による危険箇所の確認、昨年度“日本一”を獲得した児童中心のあいさつ運動など幅広い活動を展開。これらの活動が評価され、交通安全をなくす県民運動本部主催の「こどもの交通安全大会」で見事、3年連続で表彰されました。

言 2016年 福智町日韓学生交流事業
言葉の壁を越えて友情を育む

日韓交流事業で7月16日、韓国・泗川市の小学5、6年生20人が2泊3日で町を訪れました。平成14年の上野焼開窯400年を機に、上野焼ゆかりの地である泗川市との間で子ども同士の交流がスタート。町からは小学5、6年生13人が参加し、遊びや食事、文化発表、上野焼の見学などを一緒に楽しみながら、交流を深めました。



↑歓迎式で日本語での「ふるさと」合唱や、リコーダー演奏をする泗川市の小学生。

↓平成筑豊鉄道金田本社に訪問し、差別のない明るい町づくりを訴える嶋野町長。



人 7月は同和問題啓発強調月間
人権意識の向上を町民に呼びかけ

同和問題の正しい理解と解決を訴え、町長をはじめ職員など約50人が7月1日、街頭啓発活動を行いました。参加者は町内34社への企業や、駅前、スーパーなど5か所で、啓発チラシと啓発タオルを配布。町民一人ひとりに、同和問題などの人権問題を解決するため、意識の高揚や、月間中の啓発行事への参加を呼びかけました。